

儒学論集

儒学文化 創刊号

巻 頭 言

創刊によせて

学校法人昌平黌 理事長

儒学文化研究所 所 長

田 久 孝 翁

戦後 50 数年、今日の日本は少子、高齢化というアンバランスの時代的背景を迎えている。加えて青少年の凶悪犯罪低年齢化、学校崩壊等々、社会教育の分野で未曾有の問題を抱えている。そのような中で本学としては人間形成、心の教育を主眼として建学の精神に基づく孔子の教えをモットーに大義と大和、即ち「義を行い以て其の道に達す」ることを現実の教育問題として取り組んできた。その一貫として、学内に大成殿を設け孔子像を始め四天王（四配像）を安置し、学生一人一人が自らの目でその精神の所在を確認する。以って「指導教育」とする。

その一方で、第 2・3・4 各土曜の午後を以て学生及び一般人を対象とした論語の素読教室を開いて来たところでありました。

更にこれを発展させ本年当初より「儒学文化研究所」とこれを改め、学内外に同好の志の参堂を求め再出発を図り、時代の要請に応え日本文化の原点に迫ることに致しました。

仍って 21 世紀は教育改革の時代、我が国に於ける特に大戦後 55 年、歴史と文学の分野に於いて全人的教育の在り方が問われている問題を憂慮し、是れを学び是れを知ること正に温故的知新者の道程であることから、ここに改めて斯道奨励の為を以て同好の志のご協力を賜り、儒学文化に対する成果を期待すると同時に創刊号発刊の辞と致します。